

いわき農林事務所ニュース

2007年 10月号

◎活動状況

- ・平成19年度第2回いわき地域有機農産物等普及推進会議開催
- ・「[有機農産物生産者と消費者の絆づくり交流会](#)」開催
- ・第2回いわきの郷土食をつくる会開催
- ・渡辺小学校の田んぼの学校

◎トピックス

- ・第48回福島県農業賞表彰式開催
- ・第13回いわき市児童生徒木工工作コンクール開催



活動状況

○平成19年度第2回いわき地域有機農産物等普及推進会議を開催しました

いわき農林事務所では、昨年度より「いわき地域有機農産物等普及推進会議」を設置し、関係機関・団体と連携して有機栽培等の技術の普及や産地化を推進しています。

去る9月11日に、水稻有機栽培（常磐藤原町）とネギ有機栽培（山田町）の各技術実証ほを会場に現地検討会を主体に、本年度第2回目の会議を開催しました。

会議には実証ほ担当農業者や県、市、JAなどの関係機関・団体に加え、販売関係者にも出席いただき、生育状況や病害虫防除上の課題と対応策等について検討するとともに、いわき地域における有機農産物等の普及拡大に向けた意見交換が行われました。

水稻の有機栽培実証ほでは、9月7日の台風9号により軽度の倒伏が見られたものの、ほ順調に登熟が進む一方、斑点米の原因であるカメムシの多発が確認され、有機栽培における病害虫防除の難しさを実感することができました。今後も、定期的な開催により、有機農産物等を活かした農業の振興を図っていくこととしています。



水稻実証ほにおける検討

○「有機農産物生産者と消費者の絆づくり交流会」を開催しました

この交流会は9月22日に「有機農産物栽培見学ツアー」と銘打ち、いわき市内の消費者33名の参加により開催しました。有機農産物を栽培している市内の現地を見学し、生産者との交流を通じて有機農産物に対する理解を深めてもらうことを目的としており、平成17年度に開始し今回で第3回目の開催となりました。

まず始めに、水稻（コシヒカリ）の有機栽培をしている常磐藤原町の滝正嗣さんの水田を訪問し、雑草、害虫及び病気への対応や用水の水質浄化のために木炭フィルターを使用することなどの苦労話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。更に通常の栽培方法とは違い多大な労力が必要になることを知り、売買価格や購入方法についての質問が出ていました。



ネギ実証ほにおける検討

次に、山田町の坂本和雄さんを訪問し、有機栽培により「龍翔」と「羽緑」の2品種を栽培しているねぎ畑を見学しました。雑草を防ぐ工夫や病虫害対策の話聞き、参加者からは「ぜひ食べてみたい」「直接購入することはできないのか」といった声が上がっていました。

続いて、農産物直売所の「JAいわき市新鮮やさい館」を見学し、いわき市川部公民館において「菜こそ来てこそ市山玉農産加工グループ」による地場の食材をふんだんに使った手作りの弁当を楽しみ、地産地消への理解を深めました。昼食後は、ナシのエコファーマーに認定されている好間町の青木治美さんを訪問し、栽培上の苦労や今後の目標についての話を聞き意見交換を行いました。最後に、福島県が開発した新品種の「涼豊」の試食を楽しみました。

参加者からは、「今後はぜひ購入したい、もっと多く流通させて欲しい」との声が多く聞かれ、有機農産物とエコ農産物についての理解も深めていました。

○第2回いわきの郷土食をつくる会を開催しました

いわき地区生活研究グループ連絡協議会は、平成19年9月25日いわきの郷土食をつくる会を開催しました。会場の三和ふれあい館には市内各地から25名が集まりました。

市内の農村女性で結成しているいわき地区生活研究グループ連絡協議会では、地元の旬の食材を使って古くから伝わる郷土食や伝統食をつくり、味わう体験を通して、消費者に安全・安心でおいしい食の提供と食文化の継承につなげたいと活動しています。今年度は4回の開催を予定しており、今回は第2回目の開催となりました。



かぼちゃ大福作り体験

グループ員が講師となり、自然豊かな三和の食材を活用した「祭り膳」と題して、トマトのフライ、かぼちゃ大福・そば大福づくりを体験しました。調理実習後はグループ員が持ち寄った混ぜご飯、きのこ汁、煮しめ、きゅうりの酢の物、漬物、黒糖蒸しパンが振舞われ、大福や漬物のつくり方など、レシピにはないコツの話を聞きながら、にぎやかに祭り膳を味わい、交流を深めました。

○渡辺小学校「田んぼの学校」（稲刈り・はせ作り）

9月28日(金)、渡辺小学校「田んぼの学校」において、「稲刈り」「はせ作り」を実施しました。

この日は、5月に植えた「ふくみらい」と「まんげつもち」のうち、「ふくみらい」の刈り取りです。児童達はまず、同じ日に植えた苗(中生種:ふくみらい、晩生種:まんげつもち)で、なぜ刈り取り時期に違いがあるのかを、農業改良普及員から説明を受けた後、稲刈りを開始。

手渡された鎌の鋭さに、初めのうちは、恐る恐る刈り取っていましたが、次第に扱いにも慣れ、「さく。さく。」と小気味よい音をたて、リズムよく稲を刈り取っていきました。

はせ作りは、力仕事のため、児童達には大変困難な作業でしたが、地元応援団のサポートにより無事完成させ、早速、刈り取った稲を掛けていきました。

この日の作業は、TV取材を受けましたが、作業中、「稲刈りは大変ですか?」とカメラを向けられると、「思った以上に大変だけど、みんなで一先懸命育てたお米が収穫できてうれしい!」などと笑顔で答えていました。

しろかき、田植え、草取りを経てやっと収穫となりましたが、お米作りはまだ途中です。この後、脱穀、籾すりの作業がありますが、早く今日の収穫の喜びを味わいたい想いです。



稲刈りの様子



はせ掛けの様子

トピックス

9月4日(火)、第48回福島県農業賞表彰式が福島市の杉妻会館牡丹の間で行われました。いわき地方からは、渡辺町の若松孝臣氏、トミ子氏御夫妻が「農業経営改善部門」で県知事賞、県農業会議賞、県農業協同組合中央会賞、ラジオ福島賞、福島民報社賞を受賞しました。

御夫妻は水稻単作で約50年の実績があり、「いわきコメの会」会長、「JAいわき中部産米改善協議会」会長、エコファーマーとして、減農薬・減化学肥料の特別栽培米や低アミロース米など安全・安心なコメの生産や、地域の担い手として稲作の作業受託に積極的に取り組んでおります。

昨年は新嘗祭に県の奨励品種「ふくみらい」を献上し、今年は渡辺小学校の「田んぼの学校」での水稻育苗など、地域に根付いた手本となる営農を続けております。これらのことがこの度評価され、今回の受賞の運びとなりました。

御夫妻は、「後継者の育成に努力していきたい。」と抱負を語っており、今後益々の活躍が期待されます。



佐藤知事を囲んで

○第13回いわき市児童生徒木工工作コンクールが開催されました

木の良さを再発見するとともに、児童生徒の造形能力の発達を目的とした「第13回いわき市児童生徒木工工作コンクール」の展示会が、福島県木材青壮年協会いわき支部の主催により、9月8日、9日の2日間、いわき市平の藤越・スーパーセンター谷川瀬店の2階催事場で開催されました。

コンクールには、いわき市内の小学校39校より1,301点の作品の応募があり、各小学校の校内選抜を経て、396点の作品が展示されました。展示会に先立ち行われたコンクール審査会では、木の持つ質感を活かし、創意工夫の後を感じさせるいわき市立小名浜東小学校4年生の望月瞳さんの作品と、いわき市立好間第四小学校6年生の五十嵐拓哉君の作品がいわき農林事務所長賞に輝いたほか、特選ほか100点が選ばれました。展示会では、自然木の風合いを活かした作品や大人顔負けの作品に、会場に訪れた大勢の親子連れや買い物に来た人が感心しながら見入っていました。

なお、優秀な作品は、福島県児童生徒木工工作コンクールに推薦されるほか、10月の福島県林業祭（ふくしま木材フェア）や11月に行われるいわき産業祭においても展示されます。



望月瞳さんの作品
「大きなトカゲと森の兄弟」



五十嵐拓哉君の作品
「ツリーハウス」

◀ もどる

すすむ ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]